



RI 会長エレクトのテーマ講演 2019 年国際協議会

マーク・ダニエル・マローニー

2019 年 1 月 14 日

皆さん、おはようございます。サンディエゴへ、そして2019年ロータリー国際協議会へ、ようこそお越しくございました。

サンディエゴへの旅は快適でしたか？

旅行、特に空の旅について文句を言う方は少なくありませんが、私はいつも旅行が好きです。列車でも、飛行機でも、車でも、船でも、どこかに行くのが好きなのです。ワクワク感や新しい機会、それまで見たことのないものを見たり、会ったことのない人に会ったりするチャンスがあるからです。

スーツケースの荷造りをして家を出たら、何が待ち受けているかわかりません。

これはいいことかもしれませんし、よくないことかもしれません。

数カ月前、妻ゲイと旅行をしたとき、陽気な旅好き(つまり私)の楽観主義を打ち砕いてしまうような経験をしました。もう旅を終えているはずの日なのに、予定していなかった空港で降ろされ、翌朝は聞いたことのない名のホテルで目覚めるはめになったのです。まったくついていない日でした。

しかし、旅とは自分でつくるものです。私たちは、ニューヨーク市のジョン F. ケネディ国際空港で6時間ほど待たされていました。この空港には年間約6千万人の利用客がおり、90社以上の飛行機が乗り入れて世界のほぼすべての国を行き来しています。アメリカの玄関口ともいえる空港ですから、ありとあらゆるタイプの人があります。待ちながら、私はゲイに「ぶらっと散歩して、人間観察を試みよう」と言いました。そして、ターミナルの一番端まで歩き、戻ってくる間に、それぞれの搭乗ゲートを観察しました。いろんな目的地に向けて、いろんなグループの人たちが搭乗を待っています。

目的地の表示を見なくても、どこ行きの飛行機だかわかることもありました。台北、モスクワ、ケープタウン、イスタンブールなど、そこにいる人たちの行き先がわかるのです。各ゲートが、人の島をつくっていました。コンコースの中央はニューヨーク、そこを歩く私たちは、ほかの人たちと一緒に川を下っています。川の流れを離れて搭乗ゲートの座席に座ると、そこは島です。その島は、ブエノスアイレスだったり、パリやテルアビブだったりします。

歩き始めたとき、ある考えがひらめきました。「いろいろな国から、いろいろな人が、一つの場所に集まっている。ロータリーみたいだ！」と。しかし、ゲートを次々と通り過ぎながら、あることに気づきました。

いや、ロータリーとはまったく違う。この川を下っている人はみな、それぞれ違う島を目指しているから。それぞれの島は、一つの島でしかない。台北に行く人たちが互いに話すことはあっても、カイロ行きやリマ行きの人たちと話すことはない。アムステルダムに行く人たちは、ラゴスに行く人たちとはまったく関係がない。

これをロータリーと比べてみてください。

これから数日間、皆さんは、世界中から集まった人たちと出会い、話すだけではなく、ともに協力し、分かち合い、人生最大の冒険に向けて準備をしながら、仲間や友人となっていくのです。

荷造りをして家を出たとき、この旅で何が待ち受けているかは誰もわかりませんでした。

今もわかりません。

しかし、確かなことが一つあります。それは、旅とはすべて自分でつくるものだということです。

今週、私たち一人ひとりが始める旅、2019-2020年度に向けて、また2019-2020年度とその先にともに歩いていく旅は、私たちが一緒につくるものです。出身国がどこであれ、話す言語が何であれ、文化や伝統が何であれ、私たちがここにきた目的は一つです。

それは、より多くのロータリアン、ローターアクター、そしてすべてのロータリーファミリーが、これまでよりもっとよく奉仕できるように、より強いロータリーを築くことです。

2019-2020ロータリー年度に目を向けながら、今日はここで、そのための私たちの役割についてお話ししたいと思います。

ロータリーだけでなく、どの組織でも、リーダーの目標は、決して「可能な限り最大限を達成すること」であるべきではありません。真のリーダーの目標は常に、「周りの人が可能な限り最大限を達成できるようにすること」であるべきです。皆さんが素晴らしい仕事をすると信じて疑いませんが、今週とその先に注目していただきたいのは、地区とクラブが最大限に活動できるよう導くには何が必要か、ということです。皆さんの役割は、クラブで活動するロータリー会員を支援すること、そして、より強い組織を築くことです。これは、次年度の皆さんの役割であり、私の役割であり、私たちが分かち合っている役割です。そのために私たちは、新しい戦略計画に沿って協力します。すなわち、より大きなインパクトをもたらす、参加者の基盤を広げ、参加者の積極的なかわりを促し、適応力を高めるのです。

活動の指針となる強調事項は4つあります。

最初の強調事項は、ロータリーを成長させることです。私たちの奉仕活動やプロジェクトのインパクトを成長させること、また、最も重要なのは、これからより多くのことを達成するために、会員基盤を成長させることです。

ロータリーの会員増強がよく話題になります。毎年、同じ問題について、少しずつ違う方法で話しています。ロータリーが急成長している地域もありますが、多くの地域では期待する変化が見られていません。昨年、ロータリーでは、誰も望んでいなかった記録が打ち立てられました。それは、ロータリー退会者数の記録です。期待した経験がロータリーで得られなかったから退会した、という人たちがいました。生涯ずっとロータリーを愛しているという人たちもいましたが、彼らは去りました。その能力、経験、リーダーシップと一緒にロータリーを去ったのです。

この課題への答えは、退会者の代わりに新入会者を増やすことではありません。それは、穴だらけのバケツに水を注ぐようなものです。会員減の根本原因、すなわち、会員の不十分な参加や、着実に進む会員の高齢化に取り組む必要があるのです。

根本から変える時が来ていることは明らかです。会員の参加促進と多様化を阻む障害が何であるかは、もうわかっています。この知識を基に、行動を起こす時が来ています。新しい会員モデルをつくり、ロータリー入会への新しい道をひらき、既存のクラブが既存のニーズをかなえていないところで新しいロータリークラブとローターアクトクラブをつくるのです。これは、クラブと会員基盤の成長がなぜそれほど大切なのかをクラブ会長に理解してもらうだけでなく、そのための効果的な構造をクラブが備えられるようにすることを意味します。

奉仕するロータリーと消えゆくロータリー、それを分かつのが会員増強であることを考えると、会員増強委員会のないクラブがいかに多いか、また、友人の勧誘を会員に強く勧めるだけのアプローチを用いているクラブがいかに多いかに驚きます。それは、すべてのクラブが一様にならざるを得ない道であったばかりか、成長のない20年間をもたらしました。必要なのは、組織的なアプローチです。全地区に会員増強委員長を任命すること、そして、個人ではなく地域社会に入念な目を向けることのできる多様な委員から成る会員増強委員会をクラブに設置することです。地域社会にいる人びとのグループ、役職、職業のうち、クラブに会員がいないのはどれか？見つける必要があるのは、そういった人たちです。

このアプローチは画期的でも何でもなく、ロータリーに古くからあるアイデアの一つにすぎません。つまり、「職業分類制度」と呼ばれるものです。113年間続いてきたものであり、これを再発見し、活用する必要があります。

これに加え、新クラブの結成を通じてロータリーを成長させなければなりません。ロータリークラブがないところだけでなく、ロータリーが既に活発に活動している地域社会においても、新クラブをつくる必要があります。ほかのクラブとは違う例会や奉仕の機会がある新しいモデルのクラブを立ち上げる必要があります。新クラブの結成は、地区ガバナーと地区の明確な責務であることを忘れないでください。

次年度の2つめの強調事項は、クラブよりも家庭に近いところにあります。それは、「家族」です。

私がガバナーだったとき、まだ幼い娘が2人いるのにどうやって職業とロータリーのバランスを図っているのかと時々聞かれました。その答えはシンプルでした。ゲイと一緒に子どもたちも連れていったのです。娘たちはマローニー家で育てられましたが、ロータリーファミリーにも育てられました。これは、娘たちだけでなく、家族全員のためになりました。さらに、クラブか家族かの取捨選択をしなくて済んだので、ロータリーのためにもなりました。

会員にこの選択を期待すべきではありません。ロータリーの活動と家族との時間が競合せず、互いに補完し合うような文化をつくっていく必要があります。これには、現在の文化を変えるための現実的なステップを踏み出すこと、つまり、期待を現実的に受け止めて、会員のスケジュールに配慮し、すべてのレベルのロータリー行事(この国際協議会にいたるまで)に子どもを受け入れることを意味します。

私たちが最もロータリーに必要とする人びと、すなわち、地域社会に貢献したいという若い職業人たちの日常的な現実を無視したままでは、ロータリー会員の平均年齢を変えることはできません。人生の段階の途上にある若い世代を、ありのままに迎え入れる必要があります。

これと関連しているのが、3つめの強調事項です。それは、忙しく仕事しているロータリアンもロータリーのリーダーとなれるようにするための道をひらくことです。

クラブ会長の仕事は、忙しい職業人には重すぎる時間のコミットメントであると見なされるべきではありません。地区ガバナーの仕事は引退してから務めるものだと期待すべきではありません。リーダーの役職をフルタイムの仕事にしてしまうことで、ロータリーが最も必要とする人たち、つまり、奉仕とリーダーシップを数十年にわたってロータリーで発揮できる潜在性のある人たちに、貢献への扉を閉ざしてしまっているのです。

ロータリーのはしごは、登るのが難しいものであるべきではありませんし、その必要もありません。

もっと簡単にできるのです。ロータリーでリーダーとなることを阻む障壁の多くは、私たち自身が築いたものであり、違う時代、違う世代に合わせてつくられたものです。今こそ、適応し、文化を変えるときが来ています。全クラブを個別に訪問しなくても優れた地区ガバナーになれる、また、全部一人でこなさなくても優れたクラブ会長になれるというメッセージを伝えるときが来ています。人生のどの段階にあっても、次年度にリーダーシップを執るのは皆さんです。ご自分の地区で、リーダーシップの文化を変え始めてください。

これら3つの強調事項はすべて、組織内部の健全さ、すなわち、ロータリーの成長を可能とする構造と機能に焦点を当てています。しかし、ロータリーは地域社会から孤立している存在ではありません。ロータリーは、それが奉仕する世界に存在するのであり、世界をつなぐために奉仕しています。

この理由から、4つめの強調事項は、長年にわたるロータリーと国連との歴史的な関係に焦点を置いています。

2020年はロータリーの115周年にあたり、国連はその歴史的な設立から75周年を迎えます。この年は、私たちのパートナーシップを祝うときでもあり、世界各地で一連の会長主催会議が予定されているほか、ロータリーが大きく貢献できる「持続可能な開発目標」に焦点を当てていきます。安全な水、保健の充実、教育の改善、経済の安定など、世界の恵まれない人たちのためにどの分野で活動する場合も、ロータリーは、より健康で、平和で、持続可能な世界に向けた国連の継続したコミットメントを共有しています。ロータリーは、ほかの組織では得られないものを提供しています。それはつまり、奉仕と平和という精神の下に世界中の人びとがつながることができ、目標に向かって意義ある行動を起こすことのできるロータリーのインフラです。

ロータリーのビジョン声明は次のように謳っています。「私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています」

私たちは行動人です。世界を変えたいと望むだけでなく、インスピレーションを持続可能な真の変化に変える力が、私たちにはあります。

その力は、私たち自身、また、私たちの活動を可能とするロータリーという土台があるおかげです。

ロータリーを通じて、私たちはつながります。

ロータリーで私たちは、お互いの違いを超え、深く、意義あるかたちでお互いにつながることができます。ロータリーがなければ出会うことがなかった人びと、職業上の機会、私たちの支援を必要とする人たちとのつながりをもたらしてくれます。

このつながりこそが、私がJFK空港のコンコースを歩いたときの経験と、ロータリーでの経験を、まったく違うものにしていきます。ロータリーでは、誰一人として島ではありません。誰であろうと、どこに住んでいようと、どの言語を話そうと、どの伝統に従おうと、私たちは皆一緒にいます。私たちは互いに、また地域社会とつながり、同じクラブの会員だけでなく、私たち全員が属する世界的コミュニティの人たちとつながっています。

ロータリーでの体験の中核にあるのが、このつながりです。それがあから、私たちはロータリーに入会し、ロータリーにとどまるのです。ロータリーを成長させる方法も、つながりにあります。そして、これが2019-2020年度のテーマです。「ロータリーは世界をつなぐ」

世界がかつてないほど分断されている今日、私たち全員をつなぐのはロータリーです。私が手にしているこの機器も、世界とのつながりを可能にします。皆さんも2019-2020年度テーマを撮影しようと携帯電話を手にお持ちのようですので、ソーシャルメディアでこのテーマをシェアしていただきますようお願いいたします。写真を撮って、ソーシャルメディアに投稿し、ロータリーを通じて皆さんが世界といかにつながっているかをシェアしてください。

比類のない基盤を有するロータリーを通じて私たちは、人類の素晴らしい多様性とつながり、共通の目的を追求しながら末永く深い絆をつくり出します。

楽観主義、勇気、そして喜びを胸にともに旅立つ今、この旅は、ほかの旅と同じように、私たち自身がつくっていくものだとは私たちは知っています。これまで何世代ものロータリアンにインスピレーションを与えてきた奉仕と友情の精神で、これからの1週間、そして次年度に取り組みましょう。奉仕、友情、そしてコミットメントを通じて「ロータリーは世界をつなぐ」という確信を胸に。